

P.1

## 拒絶理由通知書

Issue Date : May 15, 2007

特許出願の番号 特願2002-336689  
 起案日 平成19年 5月 9日  
 特許庁審査官 金丸 治之 9535 3D00  
 特許出願人代理人 志賀 正武（外 5名）様  
 適用条文 第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

## 理由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

## 記

## ・請求項1～6

## ・引用文献

1. 特開2000-315513号公報 (以下「第1引用例」という。)
2. 特開平06-239147号公報 (以下「第2引用例」という。)

## ・備考

## 請求項1について

第1引用例には、燃料電池と、燃料電池の発電エネルギーにより車両を駆動する駆動モータと、燃料電池を主ラジエータによって冷却された第1の冷却媒体により冷却するための第1の冷却流路と、前記駆動モータ又は前記駆動モータの動力制御装置を副ラジエータによって冷却された第2の冷却媒体により冷却するための第2の冷却流路とを備えた燃料電池車両の冷却構造が記載されている。一方第2引用例には、ラジエータを車体の前面かつ中央に配置し、インターラー及びオイルクーラーを車体の前面でかつその熱交換面がラジエータの熱交換面と重なり合わないようにして車幅方向にずらして配置する技術が記載されている。第1引用例に記載の燃料電池車両の冷却構造に、第2引用例に記載の技術を適用し本願の請求項1に係る発明のような構成とすることは当業者であれば容易に想到し得

る。

P.2

## 請求項2について

第1引用例には、燃料電池と、燃料電池の発電エネルギーにより車両を駆動する駆動モータと、燃料電池を主ラジエータによって冷却された第1の冷却媒体により冷却するための第1の冷却流路と、前記駆動モータ又は前記駆動モータの動

力制御装置を副ラジエータによって冷却された第2の冷却媒体により冷却するための第2の冷却流路とを備えた燃料電池車両の冷却構造が記載されている。一方第2引用例には、車体前後方向に沿って配置された左右一対のメインフレームの間の車幅方向ほぼ全域に渡ってラジエータを車体の前面に配置し、インタクーラ及びオイルクーラを車体の前面でかつメインフレームの外側に配置する技術が記載されている。第1引用例に記載の燃料電池車両の冷却構造に、第2引用例に記載の技術を適用し本願の請求項1に係る発明のような構成とすることは当業者であれば容易に想到し得る。

#### 請求項3について

第2引用例には、インタクーラ及びオイルクーラをその熱交換面が斜め前方外側に向くように配置する技術が記載されている。

#### 請求項4について

第2引用例にはラジエータをその熱交換面が斜め上方の前方を向くように配置する技術が記載されている。

#### 請求項5について

主ラジエータと副ラジエータとの間に、両者の間を塞ぐシール部材を設ける程度のことは当業者であれば想到し得る。

#### 請求項6について

第2引用例には、ラジエータに対してインタクーラ及びオイルクーラの設置高さを低くする技術が記載されている。

#### 先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C B 6 0 K 1 1 / 0 4

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

P.3

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら特許審査第2部・運輸・金丸治之 (TEL. 03(3581)1101 内線3339) までご連絡ください。